

■ 9 講師による研修に対する意見等

研修後に講師への意見収集を実施した。収集した意見は以下の4項目である。

①については9ページに結果の要約を掲載している。②③④については、回答内容を整理し、本節(2)講師による研修および受講者に対する意見等としてまとめた。

講師への意見収集

目的	講師自身に意見を出してもらい、研修全体の組み立ての再考のみならず、講師自身の研修内容のブラッシュアップにつなげることを目的に実施
調査対象	講師全員
調査方法	以下4項目について紙面により回答、自由記述方式
意見内容	①担当した授業の組み立て、課題設定についてどのように考えていたか ②担当した授業について、受講者の反応についてどのような感想を持ったか ③実施した講義についての自己評価 ④その他、今後の課題等

(1) 講師による研修に対する意見等のまとめ

【研修の成果】

講師による研修の成果としては、各テーマで設定した目的の理解、できていないことを自覚、介護福祉士の専門性と役割としてそれらが重要であることへの気づきなど、受講者の理解が進んだと感じている意見があげられた。

また、受講者の変化として、アンケート結果の中に「自宅では前回の講義内容を思い出しながら、考えていた(介護の質の向上)」というものがあつたが、このように講義内容が講義終了後も頭の中に残っているということは、PBLを意図した今回の研修としては、嬉しい反応である。「初日に研修の進め方を担当したので研修前後の比較をすることができたが、研修を通じての受講者の討議の力、プレゼンテーションの力の向上を実感した」があげられた。6か月の研修期間をとおして、PBL手法による学習が受講者に変化や気づきを与え、講師自身が受講者の変化を目の当たりにできたことは、本研修実施の意義の再確認につながるものである。

なお、講師からの意見においては、上記のとおりポジティブな視点の意見とともに、以下のとおり今後の課題・改善点が多く指摘される結果となった。

【研修の課題1：PBL手法の充実_時間配分と進行】

「時間配分を誤り予定していた内容が十分にできなかつた」「まとめの時間が十分ではなかつた」など、授業の適切な時間配分ができなかつたという意見があげられた。本研修ではPBL手法を取り入れており、講師自身も手探りの中で検討を重ねシラバスや授業計画を作成した経緯がある。第一期生ということもあり、計画どおりの対応ができなかつたことが、時間配分や進行における課題として浮彫になった。

一方で、PBLの良かった点としてヒントになるのは、「一つの手法に焦点をあてて授業を展開した結果、効果的な授業が展開できた」という意見である。時間を要する授業展開であることから、多くのことを取り入れようとすると混乱や無理が生じやすい。成功例を積み重ね、講師同士の情報交換や工夫の共有に取り組み、講師一人ひとりがPBLによる授業展開について充実を図る必要がある。

【研修の課題2：PBL手法の充実_事前学習課題と講義や演習の関係】

事前学習(自己学習)課題と講義や演習、グループワークが有機的に関連付けられなかつたという指摘があつた。PBLでは主体的な学びが重要であり、本研修においても事前学習(自己学習)を受講者に課している。仕事をしながら長い研修期間に対応しなくてはならない本研修において、事前学習が受講者の負担になることは講師自身も十分に認識をしている。事前学習課題を提示するにあたっては、PBLによる展開を踏まえつつ、講義や演習に効果的に作用する(つながる)内容や学習方法を提示する必要がある。

【研修の課題3：リーダー養成という視点の充実】

研修内容の充実に向けた課題のキーワードとしては「リーダー」があげられた。「リーダー」を養成するという目的を踏まえ、授業内容の精査や充実が必要であるという意見が複数あげられている。そのためには、まず、本研修における「リーダー」の位置づけを明確にし、講師陣が共有するとともに、「リーダー」に必要な能力についてそれぞれの授業で学びを深化させる取り組みが必要である。

【研修の課題4：テーマ別教育による基礎知識の底上げ】

「介護計画とケアプランとの違い・連動性」「アセスメントと計画立案」「計画を立案した後の評価方法」「ICFの視点を介護過程に取り込む方法」「介護予防につながる具体的な取り組み」「医療職との連携やその介入方法等」など、介護の基本的知識、医療との連携のあり方などにおいて内容の充実が必要であるという意見があげられた。これは、受講者の基礎知識の差の課題でもある。

本研修は、リーダー養成を目的としているが、サービス管理の領域とともに、介護の基礎知識、医療を必要とする利用者に対する介護、身体的疾患あるいは精神的疾患（認知症を含む）のある高齢者の介護、介護予防の視点を取り入れたテーマ別カリキュラムを設定した（4ページ～）。サービス管理の領域以外をカリキュラムに含めた背景には、2007年の介護福祉士養成課程カリキュラムの改正に対応した知識と技術を修得していない受講者がいること、指導をする立場であるリーダーを育てる視点から学びなおしの機会を提供することにあつた。

介護の基本等に関する基礎知識の差は、演習の展開や授業への参加度に影響を与える可能性がある。受講者自身の気づきや変化につながりにくいという指摘もある。受講者の主体的学びの力を育てつつ、授業内容や演習の工夫を通じて基礎的知識の底上げを図る必要がある。

また、内容の充実とともに、他のテーマとの調整や連動が必要であること、グループワークの方法、課題→グループワーク→発表→コメントの進め方の工夫が不十分であるなど、テーマ間の連携や展開のあり方についても課題が指摘されている。

【研修の課題5：新たな取り組み・研修全体の課題】

新たな課題として自由記載においてあげられた内容を要約すると、以下にまとめることができる。

- 感染予防についての講義があるべき
- 介護過程の基礎的知識を学ぶ時間があつたほうがいい
- 「障害者の理解と介護」について、研修全体の中でのテーマの位置づけを検討する必要がある。（障害者関連の事業所の勤務者が少ない）
- マネジメントの部分の時間数と内容のバランスが悪いので、時間数を増やすか、内容の精査をして焦点をしばる必要がある。
- 生産性の向上のシラバス、内容・流れを時間数にあわせて再度見直す必要がある。

- 受講者からマネジメントの時間数を増やして欲しいという要望があり、講義する側もこのテーマに対する時間不足は同感である。

サービス管理のテーマの中には、シラバスに記載された内容を実施できていない状況がみられ、シラバスの内容と時間数のバランスが悪いという指摘があった。時間数を再考する、あるいは内容の精査をして焦点をしぼるなどの対応が必要との声があげられている。サービス管理は、本研修における重要なテーマであり、受講者のニーズも高いことから、再考にあたっては他のテーマと調整を図りつつ慎重に対応すべきである。

また、シラバスの変更、テーマ間の連携などにより、より実りある研修となるように柔軟に課題に対応していくことが期待される。

(2) 講師による研修および受講者に対する意見等

①研修の成果

理解が進んだ

- ・ 実践内容を含んで説明できたので、ある程度の理解があったと感じている。
- ・ 事例を用いたことにより、受講者が理解しやすかったと思います。
- ・ アンケートに、テーマを設定した目的を理解してくれた感想が書かれてあり、概ね研修の意義はあったと思う。
- ・ 講師2名で実施したが、理論的な部分と実際的な部分を分担し、連携してスムーズに授業を展開することができたのではないかと評価している。
- ・ 自分たちのアセスメントとプランニングは、「生活」の視点、論理性、科学性が担保されているのかを強調した授業を展開したことで、普段の業務でそれらのことを常に意識することができていないこと、介護福祉士の専門性と役割としてそれらが重要であることを気づいてもらえたことは評価できる。
- ・ グループワークは、相互に影響しあい、さらにディスカッションに広がりがあったことはとても良かったと思います。
- ・ 受講者は、自主学習、授業を通して、介護過程の理解とその必要性、文章化や伝達が苦手、グループワークでの自身の課題など、このテーマを学習するにあたり、全体を通して自立を支援するために受講者自らにとって、成長するための課題を感じとることができたことが、本授業の一つの成果であるように思う。
- ・ 「ロジックツリーの展開法が理解でき、うまくはできないかもしれないが、問題解決していく方法の一つとして、学ぶことができた」「ロジックツリーという言葉自体はじめて聞いて、勉強になった。また様々な視点で物事を考える手段になると思った」という反応から、ロジックツリーという手法に絞って教授したことに一定の効果があったのではないかと感じている。
- ・ 「ケアの根拠をわかりやすく他者に伝えるための説明力(言語化)、表現力が足りないことが自覚できた」などの意見が多くあり、そういう意味では意図したものは伝わったのかと感じた。
- ・ DVD鑑賞を経て、医療的ケア、終末期の事例について、「その人」の意識がぐっと深く探求されたと感じた。
- ・ 原因を何段階も掘り下げて深く分析することが受講者にとっては難しいようであったが、演習を通じて、助言などをする中で、少しは理解してもらえたのではないかと受け止めている。
- ・ 受講者自身が介護過程を展開することで、介護過程の展開やICFの理解、自立支援にとって重要な思考過程であることの基礎的理解をしているように思う。

受講者に変化がみられた	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の中に、「自宅では前回の講義内容を思い出しながら、考えていた（介護の質の向上）」というものがあつたが、このように講義内容が講義終了後も頭の中に残っているということは、PBLを意図した今回の研修としては、嬉しい反応である。 ・兎に角、課題をグループで解決していくことができることを裏目標にしていたため、「自由な空間で学習する」「否定されない環境で学習できる」「いつでも質問しても良い環境で学習できる」という不自由さを作りだすことで、グループ間が結束しないと解決できない。というミッションは、はじめは、戸惑いが多かつたが、「自由にしていいいんだ！」という開き直つた感覚から、発言や笑いの時間がおおくなり活発になつた。 ・自立支援については、身体、精神、社会が相互に影響しあつていること、利用者を総合的にみることについて、理解を深めている様子がありました。またグループ同士のセッションも活発であり、グループ同士が影響しあつている様子が見られ良かったと思います。 ・研修期間の最後の方であつたこともあり、グループワークにも慣れてきており、スムーズに行うことができた。初日に「研修の進め方」を担当したので研修前後の比較をすることができたが、研修を通じての受講者の討議の力、プレゼンテーションの力の向上を実感した。
--------------------	--

②講義に関する今後の課題・改善点

授業の進め方・時間配分	<ul style="list-style-type: none"> ・早口で理解できなかつたとの要望がみられたため、ゆっくり話せるよう講義内容を精査する必要がある。 ・内容を詰め込みすぎて、時間配分や全体の流れに無理があつた。 ・受講者の意見にもあつたが、多くの内容を盛り込もうとしたので、時間が足りないと感じさせてしまった。 ・6時間の授業を1日で行つたが、そもそもアセスメントとプランニングの書き方を理解していない人が多く、書き方の指導にもかなりの時間を要した。その後、時間に追われて課題に取り組む形になつたことは否めないため、授業後の課題として改めて時間を使って考えてもらふ、2回に分けて行ふ等、工夫する必要性を感じた。 ・グループワークを取り入れたいが、それ自身に時間がかかってしまうので、スムーズな議論の進め方およびプレゼンテーションへの流れになるような工夫を取り入れたい(議論の明確化など)。 ・時間不足で十分なディスカッションができず、消化不良の部分があり、職務設計の演習ができなかつた。 ・もう少し現場の事例を使って、わかり易く丁寧に説明する必要があるあつた。 ・時間不足で最後の「まとめ」が走りすぎた。まとめ方の工夫が必要だと感じた。 ・他の講義の喀痰の吸引等の医療的ケアと区別できるよう、事前にシラバスの確認を求めた方がよかつた。 ・受講者はマネジメントについて学んだことがないので、主体的取り組みの工夫が必要である。 ・より一層、効率よく効果的に伝える力を身につけてもらうために、受講者全体に対するプレゼンテーションの方法を工夫したい(ワールドカフェ方式を用いる等)。
--------------------	---

<p style="text-align: center;">事前課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議を活発にし、研修内容を深めるためには、事前課題を具体的にする必要があったと感じた。 ・仕事と並行する研修であるため、事前課題を具体的に出すことに遠慮があったが、必要であることがわかった。 ・事前学習の指示ができなかった。今後、頻度の高いテキスト利用・確認ができるよう工夫する必要がある。 ・事前課題を具体的にする。 ・講義内容の予習になるような事前課題を考える。 ・事前課題をどれくらいのボリュームが適切かについて、受講者の意見を聞きながら今後検討する必要がある。 ・2回の授業の合間に文献を使って調べさせることを促す課題を出したが、「難しかった」という声の半面、「業務に生かすことができた」などの意見もあり、課題として取り組むには制約があるかもしれないが、課題提出の期限に余裕があれば、文献(HP含む)を今後も取り入れたい。
<p style="text-align: center;">リーダー養成の視点の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導」という観点をもっと授業に落とし込んでいきたいと思います。 ・より一層、介護職員チームリーダーを意識した介護過程の展開の授業としたい。 ・受講者の満足度をより高められ、期待に応えられるような内容を組み立てたい。 ・パーソンセンタードケアを基軸に、多くの受講者が「自らの課題」としているBPSDへの対応についてリーダーとしてどのように考え、どのように他の職員に伝えていくかを考えるという内容で今後考えたいと思う。 ・受講者は、医学的基礎知識の習得を求めているため、介護過程とは切り離して、介護場面で多く遭遇する疾病を中心に、介護職のリーダーとして指導できる知識を得るための、基本を知る時間が必要ではないかと考えられる。 ・認知症ケアについて現在リーダー的な立場である人にとっては、本授業の内容は物足りないのではないかと感じた。
<p style="text-align: center;">態度・姿勢・視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題などの苦手意識や、やらされ感はまだまだ克服課題があると感じた。 ・グループワークを進める力が身につけておらず、他者の進行や意見に依存している傾向にあった。 ・調べ学習などの事前課題ができていないことなどが目についた。 ・受講者は授業の内容を吸収しようとしていましたが、「考える」ということに慣れていないため非常に悩んでいる様子がありました。悩むことが非常に大切だと思います。 ・リーダー養成に向かっている者としては、受講態度の悪さが目についた。細かいことは言いたくないが、服装や、グループワークの際の態度など、気になった。 ・事例が難病を患っている方ということもあつてか、医学モデルに引きずられやすく、「生活」の視点が希薄であった。介護福祉士の専門性と役割を捉えてもらう必要がある。
<p style="text-align: center;">グループワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GWの方法に工夫と深化が必要と強く感じた。GWのグループ設定、議論する内容、発表等のまとめの方法を受講者の特性や人数をもとに対応する力が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な知識の統合や新たな気づきに至るには、課題、GW、その発表やコメントなどのつながりや関連性の工夫が不十分であった。事前課題とGWテーマとの関係があいまいであった。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内容の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の理解において、介護福祉士が介護過程を展開し立案する「個別援助計画」と介護保険上、介護支援専門員のケアマネジメントから立案する「ケアプラン」を混同している場面も授業内で見られたため、双方の違いと連動性、また、障害分野での介護過程等についても理解することができるように授業内で伝えていきたい。 ・事例を分析し利用者のニーズを考える際に、必要な情報は理解されているが、情報と情報のつながりやそれを言語化すること、計画を立案した後の評価方法についても授業内容として強化していきたい。 ・身体介護と他のテーマにおける共通部分があるため、本テーマではどこまでを学習する内容とするのか、他のテーマとの調整も進めて本テーマの教育内容を充実させていきたい。 ・ICFの視点を介護過程に取り込む方法が不足しているため、まず、ICFと介護過程の展開の関係性を理解できるワンステップの必要性を感じた。 ・本授業の到達目標は、(1)ICFに基づく身体介護とは何かが理解できる、(2)介護過程の思考過程が理解できる、(3)状態に応じた医療職の介入と連携の必要性、個別援助計画の作成に基づく身体介護が指導できるの3点を示していた。(1)(2)については受講者のアンケート等から概ね授業内容と合致し、受講者が到達したように捉えている。しかし、(3)の状態に応じた医療職の介入と連携の必要性については、医療的ケアの必要な事例を用いたものの、医療職との連携やその介入方法等について分析や計画まで含むことが十分ではなかったと感じている。 ・より一層、「生活」の視点を中心としたアセスメントやプランニングができる授業としたい。 ・介護現場での実際の事例をもとに、研修中に介護過程の展開に落とし込み、グループでの事例検討を試みたが、そもそも介護過程の経験がなく深められなかったため、事例を一律に提示する方がよかった。 ・介護予防としての回想法が、意外に受講者に受け入れられていたので、介護予防につながる具体的な取り組み内容に言及した演習を取り入れてもいいのかなと思った。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">理解度に差がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自現場での医療を継続する利用者の情報をもとに、グループ討議の資料にと試みたが、情報の取り方に個人差があったため、介護過程の基本的知識の習得の必要性を感じた。 ・認知症介護実践リーダー研修をはじめ、多くの研修を受講済の受講者もいる一方で、あまり認知症を勉強していないという受講者もあり、各人が持っている問題意識に差があった。 ・PBLでの研修に慣れていないためか、グループ討議に積極的に発言できる受講者とそうでない受講者があり、グループ内や、グループごとに差がみられた。 ・こちらの言葉への反応がまちまちで、共通認識させることが必要であった。 ・現場経験は十分あり、現場の話になると盛り上がるが、そもそも介護過程を理解していない人が多い。特にアセスメントを苦手としており、文章表現が抽象的で、論理性、具体性、発想の柔軟性に欠けていた。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">受講者が抱いている期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題の出し方が具体的でなかったため、事前学習が不十分となり、この研修で「原則として医行為でないと考えられる行為」の初歩から学びたい受講者がみられ、時間内のグループ討議が進まなかった。 ・「原則として医行為でないと考えられる行為」の具体的手技のノウハウを期待されていると感じた。 ・痰の吸引等、他の講義内容を期待している受講者がみられた。 ・受講者は、自分たちに不足する日常的に介護現場でみられる疾病の理解に必要な医学的知識を求めており、医学的基礎知識を習得するための時間が別に必要ではないかと考えられた。 ・生産性の向上については、受講者の立場や意識がどこまで影響しているのかはわからないが、理解や関心、意欲に大きな差があると感じた。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">新たな取り組み・研修全体の構造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会の際にお話したとおり、感染予防についての講義があるべきと考えた。 ・障害者施設や障害者にかかわっている受講者は少ないかと思い、「障害者の理解と介護」は、研修全体の入門部分にとらえた。研修全体の中でのテーマの位置づけを検討する必要がある。 ・マネジメントの部分の時間数と内容のバランスが悪いので、時間数を増やすか、内容の精査をして焦点をしばる必要がある。また、授業の流れを見直したい。 ・生産性の向上のシラバス、内容・流れを時間数にあわせて再度見直す必要がある。 ・受講者からマネジメントの時間数を増やして欲しいという要望があり、講義する側もこのテーマに対する時間不足は同感である。 ・ICFの視点を介護過程に生かす方法は、他のテーマでそれぞれの事例で繰り返し学ぶことで自然に理解できると思われるため、個別のテーマの事例での演習に入る前に、介護過程の基礎的知識を学ぶ時間をとった方が、利用者理解が深まると思われる。 ・理論的な考え方の修得に軸足を置いたので、第1期生には少し理解が十分でなかったようである。

③その他の意見

その他	<ul style="list-style-type: none">・「自立支援」については、研修が始まって2日目と早い時期であるため、私自身がPBLの授業に慣れておらず、研修生が導き出す答えを「待つ」ということが難しかった。・介護の質と指導については、利用者のおむつを外す、利用者の在宅復帰などに、驚いている様子がありました。今まで、ケアの現場で諦めていること、また介護職としての力を発揮していない様子がありましたので、研修終了後、指導者として期待したいと思います。・受講者の伸びしろが大きいと感じた。裏を返せば、いかに業務に追われ、あまりある能力を伸ばせない環境で仕事をしているかもしれないということから、何とか、自身の力で脱却してほしいと願っていた。これから研修で感じた自信を継続できるかが、問われていると思う。・シラバスを確認し、この講義で深めたい内容を具体的にルーブリックに落とせるよう提示する。・滋賀県は災害に被災していないとのことで、他県との温度差を感じた。・是非、報告書として世の中に広めていただきたい。・介護福祉士の横串の通った学習「ストーリーラーニング」に仕上げていくかは、私自身の評価ではなく、講師陣のチームワークと長年の介護福祉士教育への教材開発のたまものであると感じています。
-----	---